

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 26 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		江良地区湧水公園崖地整備事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト 関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断 課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革 プラン関連		
総合計画 体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	総務企画部	課長名	濱田 善也	
	施策	1	危機管理・防災対策の推進			所属課	企画財政課	担当者名	工藤 一伸	
	基本事業	1	災害の未然防止対策			所属班	政策企画班	(内線)	1244	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了 <input type="checkbox"/> 21年度から開始		成果優先度評価結果	5
		1	2	1	11	-			コスト削減優先度評価結果	9
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度		年度)	<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (20	~	21	年度)
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)										
【事業の内容】 市有地である江良地区の湧水公園(公園としての位置付けはしていない。)について、通常維持管理は地元江良区で行っているが、隣接する国有地(観音堂敷地)及び西側民地(池田武利宅)が崖地となっており、崩落の危険性がある。平成20年2月、地元区から観音堂の竹垣修理の要望として、コンクリート又はブロックへの改善要望が出され、市として未然防止のため、H20年度中に工法等を検討し、H21年度に補強工事を実施するよう新規事業事前評価二次評価会議で採択され、平成20年度国の経済対策補正予算の対象となり、平成20年度予算の繰越事業として実施するものである。										
【業務の流れ】 実施設計業務委託、地元(区長、地権者等)協議、工事発注、着手、施工、完了検査										
【主な予算費目】 委託料、工事請負費										

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 地元協議、委託料補正予算編成(平成20年度第3号)、測量設計業務委託発注、工法検討、地元地権者協議、工事請負費、繰越明許費補正予算編成(平成20年度第4号) 工事発注準備(建設課による積算)、入札、工事請負契約	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 契約した工事の施工、監理、検査 (4~6月施工、7月完了検査)
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市有地(観音の泉水公園)	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 工事実施に至る協議及び設計に要した時間 時間 イ 工事施工期間 日
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 災害時、民地や隣接地に被害を与えない施設になる	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 関係市有地面積 m イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 災害に備えることができる	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 補強ができた施設の高さ m イ 補強ができた施設の延長 m
	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 危険箇所の未整備箇所数 箇所 イ 家庭内での防災取り組みを行っている世帯の割合 %

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 20 ~ 21 年度			
投入量	事業費	国庫支出金	千円					2,000			総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限定 複数 年度 のみ 記載) 22 年度	2,000	
		都道府県支出金	千円										
		地方債	千円										
		その他	千円										
		繰入金	千円										
		一般財源	千円			300	284	1,000					
	(A)事業費計	千円		0	300	284	3,000	0	0	1,284			3,284
	うち指定経費	千円											
	うち時間外、特殊勤務手当	千円											
	人件費	正規模員従事人数	人			4	4	4					8
	延べ業務時間	時間			16	32	56			88			
	(B)人件費計	千円	0	0	64	127	223	0	0	350			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	364	411	3,223	0	0	3,634			
活動指標	ア 時間 イ 日				16	32				86			
対象指標	ア m イ				132		132						
成果指標	ア m イ m				0		4			47.3			
上位成果指標	ア 箇所 イ %				32	32	31			35			

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
観音の泉水公園(市有地)について、隣接する国有財産(観音堂)との境界部の竹垣が老朽化で腐食し、崖の崩落を防止する補強の要望(H20.2月江良区より)があり、現地確認及び地元区との協議により、隣接地(池田武利氏)側及び国有財産(観音堂)側の崖の崩壊を未然に防止するため企画した。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
H18年度、長雨により市道側崖が崩壊し、市有地と隣接地(当時:松田フサ子所有)の土砂が市道反対側民地(松田一則宅)へ流出し、同宅の納屋を損壊した。この災害に対しては、崩壊した市有地に隣接地を必要面積買収(当時:松田フサ子所有)し、市道災害復旧事業として復旧した。
ただし、納屋の損壊に対しては、自然災害のため公費での修復は行っていない。このことにより、地元区の防災に対する意識が高まり、今回の要望に至っている。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
H20.5.19に、地元関係者協議(区長、隣接地権者、建設課職員、企画財政課職員)を行ったが、地元区からは一刻も早く老朽化した竹垣を改善し、土留めを行なって欲しいとの声があった。また、建設課からは、対象地が施工困難な場所であり、補強策の方法検討、施工上の課題を克服するため、専門的な実施設計を行う必要があるという意見があった。
なお、参考資料として、実施設計を行う場合の参考見積りを徴取した。(250,000円)

事務事業名	江良地区湧水公園崖地整備事業	所属部	総務企画部	所属課	企画財政課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】⇒ 災害時、民地や隣接地に被害を与えない施設になることで、上位の災害に備えることができるに結び付く。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】⇒ 市の財産である市有地そのものに働きかける事業であり、公共の関与は妥当である。
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒ 隣接する民地等に対し、災害時に市有地の崩壊による被害を未然に防ぐ事業であるため、対象の市有地(観音の湧水公園)、意図の災害時、民地や隣接地に被害を与えない施設になることは妥当である。
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 現状では、地元手作りの竹垣程度の柵であり、しかも老朽化で腐食が激しい。この事業によって、現地に補強策を講じることによって、風水害があっても災害を防ぐことができようになり、向上の余地はある。
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】⇒ 休止、廃止すれば、周辺住民及び関係区の心配は払拭されず、大雨等による災害の予防もできない状態が続くことになり、影響が大きい。
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 市が工法検討や施工協議に関与して必要経費を地元区(江良区)に支給し、地元区で事業を実施する方法も検討したが、対象が市有地であり、事後の責任からも市自らが行うべき事業であるという結果となった。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 公正な入札で削減を図る。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 通常維持管理を地元区が行う体制であり、この事業の実施により、市が関与する部分は大幅に少なくなり、日常の管理のみになる予定である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 不特定多数の区民他、誰もが利用する市有地に関する事業であり、受益と負担の関係は発生しない。ただし、広く市民のために活用される公園的な施設として、このような形状の市有地を市が保有し、財産管理を行っていく必要があるのかについては議論の余地がある。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	②有効性について、補強工事に取り組むことにより成果を向上させる。 ③効率性については、事業費・人件費とも削減余地があり事業実施によって改善を図る。④公平性については、公平公正であるが、広く市民のために活用される公園的な施設として、このような形状の市有地を市が保有し、財産管理を行っていく必要があるのかについては議論の余地がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	②有効性について、補強工事に取り組むことにより成果を向上させる。 ③効率性について、事業費・人件費とも削減余地があり事業実施によって改善を図る。																			
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト				削減	増加	成果	向上		○	維持				低下		
		コスト																		
		削減	増加																	
成果	向上		○																	
	維持																			
	低下																			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

補強工事の実施にあたり、施工条件が厳しく、隣接住民や関係竹林所有者の理解と協力が必要になる。当然施工する請負事業者の技術も要求される。
 ④公平性の評価は適切であるが、広く市民のために活用される公園的な施設として、このような形状の市有地を市が保有し、効率的な財産管理を行っていく必要があるのかについては検討する必要がある。

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	5	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	10	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)